

発行所 兵庫中央岳風会  
発行者 立 脇 岳 堯  
編集 広 報 部

# 岳風兵庫かわらばん

## 会場に斉唱がひびく



### 合吟の部・和歌の部で みごと入賞

合吟の部入賞の皆さん



和歌の部入賞の久田さん



24年度の近畿地区吟詠大会が、6月3日（日）神戸文化ホール（中ホール）で開催された。参加会派は近畿地区の京都1会派、大阪8会派、和歌山1会派、兵庫5会派の15会派。今回は兵庫東播岳風会、兵庫岳風会、新神戸岳風会の3会派が世話役をされた。

大会は次第に則り、国旗修礼・国歌斉唱・「朗詠」（合吟）に続いて、実行委員長・田中岳逢先生の開会の辞で始まった。

漢詩の部（38名）の後、昼食休憩を挿んで、和歌の部（38名）、合吟の部（14チーム）と続いた。

岳風会の大会では、拍子笛はおろか一切の伴奏が禁止されている為、会場は静まり返っていて、吟声のみが響き渡る。その他は咳払いの声が時折聞こえる程度。CD伴奏による競吟に慣れている我々には、何か異様な雰囲気を感じられる大会である。それでも、各種の大会で名の通っている吟者は流石に大したものであった。独吟では各5名が入賞し東京での全国大会に出場となるが、漢詩の部で兵庫東播岳風会の岩城伸風さん、和歌の部で兵庫中央岳風会の久田美山さんが夫々

入賞された。合吟の部は2チームが北海道での合吟コンクールに出場となる。兵庫中央岳風会と兵庫東播岳風会が入賞し、兵庫県勢が独占した。誠に目出度い結果でした。

表彰式の前の講評を記憶の範囲で記してルポとしたい。

- (漢詩)・二句三息に拘り過ぎて、息切れしたり極端に短くなったりしている。吟じる気持ちが二句三息になっていけば良い。
- ・競吟は吟題から始まっている。吟に入る前に一呼吸の溜めを。
- ・手で調子を取ったり、詩文を手を持って出る人がいる。
- (和歌)・吟題を確りと言う。ここで高さを合わさないと、本詠で苦しむ事になる。
- ・吟じる姿勢は良くなってきた。

### 会員相互の絆を深め、明るく・楽しく・助け合って吟道研鑽に邁進しよう!!



# 新入会員の獲得、退会者の抑制に努め、一支部一名の増員を達成しよう。



## 全支部長会議開催

平成 24 年 6 月 17 日、木材会館に於いて会運営方針・支部運営活動に関する要望など意見交換のための支部長会議が開催されました。

今年度も多くの支部長から、建設的な意見が数多く出されました。詳しくは「岳風兵庫」の来年度号に掲載されますが、ここにその一部を紹介致します。

- 会員数 700 名割れが目前に迫り、会員の維持拡大が喫緊の課題。「一支部一名の増員」の努力をお願いします。
- 新編成ブロックのスムーズな運営。お互いの立場を理解し、譲り合い、助け合って明るいブロック作りをお願いします。
- 楽しい支部活動のお願い。担当師範を先頭に、支部長・支部員総力を挙げて楽しい支部づくりをお願いします。

[第5ブロック須磨寺支部 前田さん]  
一支部一名増員を目的として、小野先生の門下生を対象にアンケートを実施した。  
・「詩吟を続けている理由」(=会員慰留に繋がる)  
先生が優しく熱心に教えてくれる。  
仲間が暖かく思いやりがある。



…他にも有ったが、この二つが最も大切と痛感。  
・「会を更に盛り上げる為に希望する事」  
支部内…親睦を深める為に、忘年会新年会の継続、花見/紅葉狩り/泊旅行  
ブロック内…支部長連絡会の開催(情報交換により活性化や互いのレベルアップ)  
中央岳風会…コンクールの実施(年齢別段位別)、コンクールで成功する為の講習  
・「会員増強への取組み」(実際に取組んできた事)  
近所の知人友人と親族、趣味の会のメンバーへの勧誘。詩吟経験者への勧誘。

この二つが、カラオケ好きへの勧誘を上回った。  
・「勧誘時の障害点」  
詩吟って何？(知られていない)…吟界の外へのPR不足。  
日程や時間の問題…残業や塾との折り合いが難しい、行事が行楽時期に重なる。  
・「本部への依頼事項」  
PRに注力。ネットの活用(ホームページの立上げと維持管理)を。部外講師へ委託の伝統文化として学校教育カリキュラムに採り入れてもらう。  
・「会員自ら努力する事」  
祝の席や同窓会、シルバーカレッジ等の文化祭で披露する。カラオケに行った時やケアハウスなどの訪問時に聴いて貰う。自宅前に掲示板を置き、行事などPR。



激減する会員在籍数を説明する理事長



[第6ブロック金楽寺支部 和田さん]  
・過去5年間、退会者は無いが入会者も無く高齢化が進む。会員増強策として、教場の有る町内会広報誌に募集案内や会員宅店頭でポスター掲示をしたが、効果無し。人間関係の繋がりを

通じて取り組むしかないと考える。

- ・退会者の抑制策としては、相互の絆やふれあいを通じて楽しい教場を作る必要有り。月1回「金楽寺支部だより」を発行し、行事日程や大会の結果などを記載。

今年度の出席率は53.5%に留まり、その低さが気になります。支部長の皆様、来年度は是非出席を。担当師範からも出席を促して下さいます様に。



## 校正漏れのお詫び

機関誌 56 号の編集に当たりましては、たくさんの投稿をお寄せ頂き有難うございました。  
広報部では投稿頂いた原稿の入力作業、文面の校正、印刷紙面へのレイアウトと編集を重ね、最終印刷製本前のチェックも十分実施したつもりでしたが、特殊文字が一部印字されていないのに気付かず、発行致しました事お詫び申し上げますと共に、ここに関連紙面を再掲載させていただきます。

印字されなかった特殊文字 **バ (ファ)**

56 号 53 ページ掲載

自由投稿 「高々音の吟じ方について」 上席師範 小畑 岳川  
平成 24 年 1 月に支部の教室で、平成 23・24・25 年度課題詩のうち、初段の課題詩：李白作「早に白帝城を発す」の勉強会をしました。  
初心者の会員さんから、転句の「兩岸の猿声」の吟符、特に「兩岸」のところが分かりづらいとの声がありました。私も、昔々のことですが、確かに分かりづらくて、先生の声を聞いてもなかなかうまく会得できなかったことを思い出しました。  
ずっと以前に恩師、故「原 岳修先生」から教わった吟風を思い出して、目で見ても解るように添付資料を作成して、説明しながら吟じました。そうしたら会員さんに理解していただけました。  
みんなで何回も、何回も繰り返して大声を出して練習し、納得していただけましたのでご紹介します。  
テキストでは「三からいきなり八まで上げてから少し引いて七・六・五と下がり、再び七まで上げて六へ落として止める」事になっております。

### 高々音の吟符について

2012.1.14 小畑 岳川

#### 兵庫中央岳風会の資格審査課題詩 (平成 23・24・25 年度)

- ・初段の課題時に、高々音の符付けが採用されております。
- ・この、高々音は岳風会特有の符付けであって他会派にはありません。
- ・初段の方には大変わかりづらく、吟じにくいものです。

- ① 磯浜望洋楼に登る 転句 慨然忽ち発す……
- ② 早に白帝城を発す 転句 兩岸の猿声……

しっかりと覚えて頂きたいので、下記の通り五線譜上に基本的な音位の変化を示しました。

私が作成した資料では「三からいきなり八まで上げて、少し引いてから、さらに、瞬間的にバ(ファ)へ上げてから七へ落として少し引いて六・五と下がり、再び七まで上げて六へ落として止める」ようにしております。  
アンダーラインのバ(ファ)へ瞬間的に上げるところがテキストと異なっておりますので、資格審査会では「誤吟」と判定される可能性があります。  
念のため、祖宗範「木村岳風先生」の吟詠テープを探し出して、三島中洲作「磯浜望洋楼に登る」を聴かせていただきましたところ、バ(ファ)まで引き上げておられることを確認致しました。

岳風会独特の吟風であるこの「高々音」を、資格審査会の課題詩とすれば、まともに吟じられる人がいない……。ということで課題詩から外されていた過去の経緯がありましたが、「平成 23・24・25 年度課題詩」から「高々音」が採用されたことは、岳風会の流統を継承する意味で大変意義があったと思います。

「高々音」が初段の課題詩として適切か否かは分かりませんが、是非とも今後のテキストでも取り上げていただきたいと願っております。

「高々音」の吟風を定着させるための施策を幹部の先生に考えて戴きたいと思っております。